

県指定文化財

れいがんじ ず しおよ しゅみだん 靈岩寺の厨子及び須弥壇（建造物）

（指定日）昭和 39 年 3 月 27 日 県指定

（所在地）岩谷

（所有者）靈岩寺

有形文化財

靈岩寺は、^{しょうほう}正保 2 年（1645）開山の浄土宗の寺で、薬師堂にある厨子は、一間厨子で^{けたゆき}桁行 76cm、^{はりま}梁間 115cm、棟高 279cm の^{いりもや}入母屋造です。柱は上下に^{ちまき}粽を付けた丸柱で、^{たるき}極は^{しげたるき}繁極で二重の扇型をなしています。様式は唐様で全体として清楚な感じを受けます。昭和 36 年（1961）に解体修理がほどこされましたが、その際、^{けいあん}慶安 4 年（1651）の墨書のある板 3 枚が発見され、その板は今も元の場所に壁板として使用されています。

須弥壇は、幅 236cm、奥行 125cm、高さ 90cm で、数条の溝を彫り鼓形をなしています。三面の彫刻は厨子とよく調和した見事なもので、江戸時代初期のものとして貴重です。^{こうらん}高欄は修理のときに新たに造られたものです。



か め だ し げ き
亀 田 茂 樹 (砥部焼)

(認定日) 平成 26 年 4 月 28 日 町認定
平成 31 年 2 月 15 日 県認定
(所在地) 北川毛

無形文化財

亀田茂樹(号 ^{りょっこう} 緑光)さんは、昭和 26 年、砥部町外山に生まれ、砥部町無形文化財であった故松田哲夫氏に師事し、陶土を円筒形に引き伸ばし、外側には手を添えず、内側に入れたコテだけで膨らませて形を作るという技法を学び、昭和 49 年に緑光窯を開きました。

以来、師から学んだ技法に独自の技法を加えることにより、砥部焼の白青磁花瓶作りのリーダーとして、平成 9 年には国の伝統工芸士にも認定されました。

また、砥部焼協同組合の理事長(平成 20～22 年)として、業界発展にも尽力されました。



青白磁櫛目文花器

おおげたこふんぐん
大下田古墳群（古墳）

（指定日）昭和 43 年 3 月 8 日 県指定

（所在地）上原町（愛媛県総合運動公園・愛媛県立とべ動物園）

（所有者）愛媛県

記念物

大下田古墳群は古墳時代後期後半（6世紀）の横穴式石室を内部主体とする円墳群です。愛媛県総合運動公園内にあり、現在公園中央園路のある谷部を境に南北に分かれ、南側は、標高 60m の河岸段丘上と 100m の稜線上に分布しています。稜線上の 1 号墳と河岸段丘上の 2 号墳が県指定となっています。北側の標高 110m の稜線には 3 号墳をはじめ 6 基の古墳が分布しています。

県指定の 1 号墳は直径 20m の円墳で、西南に開口する両袖式横穴式石室から出土した子持ち高杯を含む須恵器たかつきや鉄器・装身具すえきは、古墳時代後期を代表する資料として国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）に收藏されています。2 号墳は、南に開口する 2 基の両袖式横穴式石室が構築された双円墳の形状をしています。2 号墳だけでなく 3・4 号墳などが 1 墳丘 2 石室の形態となっています。

1・2 号墳が県指定されたのちに運動公園建設によって発掘調査が行われた 3 号墳の西側横穴式石室内には、板状の石が壁のように立てられた特異な構造となっています。



大下田 1 号墳